

## 館林藩主 徳川綱吉の領地の内容

資料 3

### 1) 寛文元年

上州 (野州) . . . . .	高拾貳万九千五百八石	(12万 9508石)
信州 . . . . .	高壹万五千貳拾八石	(1万 5028石)
美濃国 . . . . .	高七万石	(7万石)
近江国 . . . . .	高三万五千四百六拾貳石	(3万 5462石)
合計 . . . . .	24万 9998石	

『館林貳拾五万石割留』 (参照：綱吉政権の主体勢力)

### 2) 年代不詳 綱吉の館林藩主末期頃

上州之内 . . . . .	高拾壹万四千九百三拾八石	(11万 4938石)
野州之内 . . . . .	高三万貳千百貳十七石	(3万 2127石)
甲州之内 . . . . .	高三千四百五十八石	(3458石)
濃州之内 . . . . .	高七万千五百五拾石	(7万 1052石)
江州之内 . . . . .	高貳万八千四百貳十三石	(2万 8423石)
合計 . . . . .	24万 9998石	

『館林領地方諸用集』 (参照：館林市誌資料編 3 近世 1 館林の大名と藩政)

\*\*\* 寛文年間と館林藩主時代末期の領地内内訳は大きな変化あり \*\*\*

上州・野州の合計が 12万 9508石から 14万 7065石へ

1万 7557石増加している

信州の 1万 5028石が無くなり 甲州の 3458石へ、

1万 1570石減少

美濃は七万石が 7万 1052石へ

1052石増加

近江国は 3万 5462石から 2万 8423石へ

7039石減少している。

館林領での新田開発により、約 2万石弱の加増はあったが、

全体としては 25万石